

## UNCCA の活動と低炭素社会の実現

幹事長 浮田正夫

2007年度から前任の中村安弘先生の後を受けて幹事長を務めさせていただき、3期目になりました。UNCCA は仰木事務局長が全てしっかり運営していただいているので、幹事長は幹事会の司会をする程度で、あまり貢献できた実感がないというのが正直の所です。

個人的な思い出としては、発足当初、宇部市の調査のお手伝いとして、市内の交通量調査や省エネ運転の効果、家庭用電力使用量など一連の調査をやらせていただいたことは貴重な経験になっています。地球温暖化に対する世論の高まりとともに、活動も年々活発になり、外部予算の獲得によって予算規模も大きくなっています。常時優秀なスタッフの方々がおられ、地球温暖化防止地域協議会としての役割をしっかり果たしてきたことは評価されると思います。

しかし一方で、この活動によって、宇部市全体で、特に家庭系の二酸化炭素排出量がどの程度減少したのか、効果は努力の割には上がっていないような気がします。今後は、そのような効果の定量的な把握が重要になってくると思いますし、そのようなシステムを宇部市環境政策課とともに確立する必要があると思います。

昨年3月11日の東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の悲惨きわまる事故を経験し、二酸化炭素削減の声がやや小さくなっていますが、そもそも電力業界が原発推進のために二酸化炭素削減、低炭素社会を利用しすぎたと思います。小生が関係した環境基本計画では常に「低炭素社会の実現」ではなく、すくなくとも「省エネ・低炭素社会の実現」にすべきであると主張してきました。持続可能社会実現の具体的な重要課題として、省エネ、循環、共生があり、省エネでは再生可能エネルギー利用・省エネ技術開発のほかに、抑制つまりある程度辛抱するというのを忘れてはいけないと思います。



2009年宇部市エコフェアー  
UNCCA ブースで  
自転車発電体験をする筆者



幹事会風景

自動車をできるだけ使わず、公共交通や近くは自転車を利用するということを実践するのに、道徳的な方法では限界があります。どうしても安い方に流れます。大勢の人がそういう気持ちを持ち、ガソリンに環境税をかける政策や、遠出するのにマイカーを利用する方が JR を利用するより経済的に不利になるような料金システムにすることを認めるということにならないと、実効が上がらないでしょう。その上で、マイカーの便利さを選ぶというなら、それはそれでしかたないことと思います。そういう政策がとれるように市民の意識が変わらないと、省エネ・低炭素社会の実現は難しいように思います。